～～～

対面リーディングと私

対面リーディングボランティア　畠田（はたけだ）　幹子（みきこ）

六月に、梅雨明けの東京、最速という。季節は年々早くなっていきますね。

私が対面リーディングに携わって、早十数年、NHKの音訳講座を受け、林先生に勧められて始めました。音訳はいまやパソコン録音に変わり、パソコンが苦手な私は出来なくなり、地元で朗読劇をやりながら、対面だけはずーっと続けています。

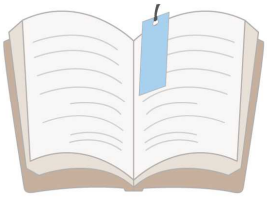
音訳はほとんど一人で、朗読劇は4～5人でチームワークを大切にします。対面は初見で読んでいきます。機械化が進み、人と人の繋がりが少なくなる昨今、対面者と話がはずみ、本が進まない時もあり、失敗談がいっぱいです（特に、図、表、外国語などの読み方）。

新聞を読んだりして知識を増やそうと思いますが、すぐに忘れてしまいます。なので、笑顔で“ごめんなさい”と謝ります。最近はようやく片意地をはらず、自分の力のままで、いいやん！と穏やかな気持ちで接し、逆に知識を貰って、ありがとうございました、とお礼を言います。

対面室を出るときは、心豊かで、少しホッとした気分です。

留守がちな私に何度もお電話下さる係の方（すみません）。でも対面の時を楽しみに待っておりますので、よろしくお願いいたします。

“遠来の　友のおとない　はじける笑顔
学びの日日の　話しはつきず”
2015.6みきこ



【職員より】

経験豊富な畠田さんは、いつも多種多様なご依頼に対応くださっています。むずかしい内容の相談にも、「いいわ、やってみます」と快くお受けくださりますし、また、対面が終了してニコニコしながら出てこられる度に、職員一同ホッと胸を撫で下ろさせていただいております。きっと自分の力のままというお気持ちで、緊張も上手に味方につけておられるのでしょうね。最後に素敵な短歌も添えてくださり、ありがとうございました。
畠田さん、どうぞこれからもよろしくお願いいたします。

わたしのふるさと

サービス部　図書貸出・対面担当　伊藤（いとう）　信乃（しの）

私の生まれた場所は千葉県ですが、小学生の時に父親の転勤の都合で現在の高槻に来てからずっと大阪に住んでいるので、大阪歴の方がかなり長くなってしまいました。千葉に住んでいた時の記憶は、ものすごく狭い行動範囲に限られてしまうので、“あなたのふるさとは？”と尋ねられると、いつも少し悩みます。

そこで、今回は、成人してから訪れた千葉の実家近くのお気に入りのスポットをご紹介させて頂きます。そして、私が“心のふるさと”としている、学生時代の10年間を過ごした京都でのお気に入りスポットを合わせてご紹介しようと思います。

まずは千葉県の実家近くのお気に入りスポットのご紹介です。今は両親が戻って住んでいる実家のある場所から、20分ほど歩くと、幕張メッセやアウトレットモールなどのある幕張市街地に到着します。ここでショッピングするのも楽しいのですが、私のお気に入りはこの後です。

夕方、日が傾き始めた頃、このアウトレットモールから10分ほど歩くと、海辺に出ます。ここは近所の方たちの散歩コースやちょっとした釣り場など、憩いの場になっているのですが、天気のよい日には、ここから東京スカイツリーと富士山が一望できるのです。夕日が富士山に沈んでいくオレンジの景色は本当にきれいで、その時間を目指して散歩に来る家族連れも多く見られます。雲の発生状況によって富士山はすぐに隠れてしまうので、こればかりは運を天に任せるしかないのですが…。

もし、幕張メッセに来られる機会がありましたら、ぜひこのきれいな夕日にチャレンジしてみて下さい。

そして次に、私が学生時代の10年間を過ごした京都のお気に入りスポットのご紹介です。数年前から御朱印を集め始め、神社仏閣を巡るのも好きなのですが、そこは紹介され尽くしていると思うので、今回はかなりマニアックな私のお気に入りポイントをご紹介します。

四条通りから先斗町（ぽんとちょう）と言われる細い路地に入って北へ歩いていくと、「うさぎのアトリエ　ぴょんぴょこぴょん」という、小さな小物雑貨屋さんがあります。その店先に、小さなウサギの置物が置かれているのですが、このウサギ、季節によってディスプレイが変わります。端午の節句には兜をかぶり、冬にはこたつでみかんなど、どれも日本の季節を感じられる、ほっこりかわいい仕上がりになっています。観光名所に行かれるついでに、ほっこりウサギに会いに来てみてはいかがでしょうか？

木村 謹治（きむら きんじ）

対面リーディングの実際 28

― 空目（そらめ） ―

空目という言葉をご存じですか。空耳と言う言葉はよく使われます。耳が目に変わったと考えてください。

空目を辞書で調べると　①そこに存在していないものを見たと認識してしまう事・幻視／②実際には見ているものを見ていないふりをする事／③顔全体ではなく瞳だけを上に向けてみる事・上目（→上目遣い）／④うつろな目（→レイプ目、虚ろ目）と書かれています。

今回は１番目の「そこに存在していないものを見たと認識してしまう事・幻視」について考えていきたいと思います。

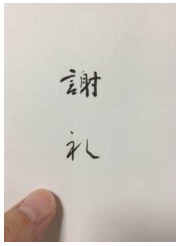
と言っても、お化けや幽霊の話ではありません。平たく言えば、見間違いです。

アルテ分館のすぐ近くにある居酒屋の事ですが、その看板を見ると、思い出してクスッと笑ってしまいます。

実は、視力が０.１以下なのに、眼鏡をかける習慣がないためか看板を「北バカ」と読んでしまいました。

「北バカ？」って何だろう。不思議に思い目をこらしてみると「北八方」でした。

答えを知っているのに、未だに「北バカ」と見えてしまい、そこを通るたびにいつも吹き出しそうになります。



Webで調べると、よく似た経験が満載です。皆さんも経験したことはありませんか？

渡された「謝礼」を見て「謝れ」と見間違えドキッとしてしまったとか。確かに謝れと読めてしまいますね。何か失敗をした場合ならなおさら怒られているような気がします。思わずごめんなさいと言ってしまうかもしれませんね。

こちらはレストランの話です。遠目から見て「必殺技」と読んでしまって大笑いだとか。

確かに、ここの店は美味しいので必殺技で調理されているのかも知れません。答えは「※税抜き」です。

もう一つレストランでの話です。

「3名でお待ちの…シエロ様ー！シエロ様ー！」

「はい」

「シエロ様ですね」

「江口です」

この話の落ちは分かりますよね？　よっぽど達筆だったのですね。江口さんも大した人です。シエロさんで自分と分かったのだから。

電車が止まって、どこかなぁと思って、慌てて窓外を見渡すと駅名が「？」。夢かなぁと思ったら「つ／津」でした。焦ったでしょうね。

何故、読み間違うのか、脳の仕組みなど小難しいことはさておき、皆様の空目の経験は１つや２つに留まることは無いと思います。僕などは、新聞を読んでいると、興味の有る題字が目に入り、中身を読んでいると何か違う。改めて題字を見直すと違っていたという

のはしょっちゅうです。

街角でも空目はよくあります。

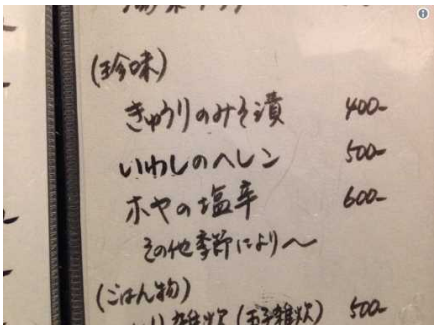
最強の現役生？

講師陣高卒生？

頼もしいのやら、心細いのやら、複雑ですね。

意味が通じないけど、「ぶっちゃけトマト」って読んでしまいます。

それでいて疑問にも思いません。不思議です。



こんな例もあります。いわしのへしこですねって頼んだら、へしこですねって言われた。

へしことは、サバやイワシなど魚を塩と糠で漬けこんで作る魚の糠漬けのことで、福井・石川・丹後半島などの地域の伝統的な保存食です。そのまま食べても美味しいし、ほんのりあぶれば、酒の肴に最適。ご飯も進むし、ダイエットの大敵です。

これを見て「もてない膳」と読んでしまった人は要注意です。自分自身を「もてない人」と思い込んでしまっている恐れがあります。

確かにパッと見、間違いますね。

こんな風に人は見間違うことが多々あります。当然、対面リーディングでも勘違いが起こりえます。勘違いに気づかないで、やり過ごすと意味が通じなくなってしまいます。

見間違えではなく「仮名や漢字がくっついて誤読する」ケースもあります。有名な例で、「ここではきものを脱いでください。」は、

（1）ここで、はきものを脱いでください。

（2）ここでは、きものを脱いでください。

読点がなければどちらが正しいのか分かりません。

（1）その後妻に、話しかけた。

（2）その後、妻に話しかけた。

こちらも区切り方一つで意味が違ってきます。

小説の名前は忘れましたが、詐欺師が出てくる話です。

「エノケソ来(きた)る」の看板が村中に立てられました。

ところで、エノケンって知ってますか。第２次世界大戦前後に活躍した「日本の喜劇王」とも呼ばれた榎本健一の愛称です。

こんな片田舎に、あの、有名なエノケンが来ると、人々はこぞって芝居小屋に殺到します。

まだか、まだかと待っていてもなかなか出て来ません。やっと出て来たかと思ったら「ええっ」

エノケンじゃなかったのです。「エノケソ」でした。高い金を払ったのに、とんだ欺瞞です。

「ソ」「ン」が似ていることと、人々の思い込みを利用した詐欺行為でした。

こんな読み間違い調査があります。

ロータリー　⇒　ロリータ

はてしない　⇒　はしたない

ウナギの蒲焼き　⇒　ウサギの蒲焼き

早速水もちこみ解禁 ⇒ 速水もこみち解禁

ちなみに、見間違ったのは20～40代までのネットユーザー412人の内236人（57.3%）とのことです。

別の調査では「空目をしたことがあるか」との問いでは、ネット閲覧で主に携帯電話を使う人の「空目」経験率は62.8%。パソコンが主な人では56.2%となり、6.6ポイントの差があったそうです。性別・年代別では女性及び携帯利用率の高い20代の「空目」経験率が高く、ともに60%を上回っています。

ところで、「ネットやメールで『空目した』という表現を使ったことがあるか」につ

いては、93.2%が「ない」と回答。日常的に使う表現としてはそれほど浸透していないようです。

実際に「どんな『空目』をしたか」について、自由回答形式で聞いてみると、「トイレ」を「トレイ」、「おこと教室」を「おとこ教室」、「やはり」を「はやり」、「スパイダーマン3」を「スパイダーマンヨ」、「千草」を「千葉」、「ひつまぶし」を「ひまつぶし」、「マスカラ」を「マラカス」、「亀裂」を「亀梨」、「恋空」を「変空」、「バンガロー」を「ガンバロー」などの空目経験があったようです。また「具体的には覚えていないがしょっちゅう（空目）する」という回答も目立ったそうです。

別の話になりますが、「旧中山道」を「いちにちじゅうやまみち」と読んだ猛者もいます。見た目がややこしい熟語、例えば「炊飯」と「炒飯」は間違いやすい一例です。

日本著者販促センターのホームページには、字の形が似ていて見違えることがある“字”一覧が掲載されています。曰く、「本には字の形が似ているため見間違えやすいものが多く存在します。特に、出版社の編集者というプロの方でも見落としてしまうケースがあるほどです。」と書かれています。

書いていて気がついたのですが「曰く」も「日」「白」と似ていますね。詳しくは http://www.1book.co.jp/003047.html を御覧になって下さい。なるほどと感心させられます。

最も間違いやすいのは、アルファベットと数字が混在する文字です。パソコンのマニュアルを始め、最近では、メールが多用された小説やSNSの画面も多用されています。

「o」「O」「0」の区別は出来ますか。見間違いやすい文字を使った手順書なら、見間違いによるヒューマンエラーが発生して当然です。

「l」と「1」も見間違えやすい文字です。前者はアルファベットの「l（エル）」であり、後者は数字の「1（いち）」です。ぱっと見れば、そっくりな文字に見えますね。

人間にはそっくりな文字でも、コンピューターにはまったく別の文字として認識され、処理をされます。

続いて「O」「0」「D」です。さて、正確に見分けることができるでしょうか。はじめのアルファベットは「O（オー）」。次は数字の「0（ゼロ）」。最後は、アルファベットの「D（ディー）」です。

特に「O（オー）」と「0（ゼロ）」を見分けるのは、難しいことです。見間違いより、完全にどちらか分かりません。

最後に「,」「.」です。前者は「,（カンマ）」。後者は「.（ピリオド）」です。少し距離を置いて、見てみましょう。もはや、同じ点にしか見えなくなります。

大相撲を御覧になりますか。国技館のある地名が「横網」。多くの人は「横綱」だと思いますよね。

両国国技館に実際に掲示されている街区表示板には、表示板の横に「あみ」「アミ」の部分を赤く塗った、しつこいまでの注意書きが先日まで添えられていました。表示板があるのは駐車場出入り口脇の警備員詰め所です。

国技館を管理する日本相撲協会によると、かつて「横綱の間違いではないか」と警備員に尋ねる通行人が多かったようです。「車の誘導中に声をかけられたりしたら双方が危険です。（横綱で正しいことを明示するため）前もって貼ってある」のだそうです。

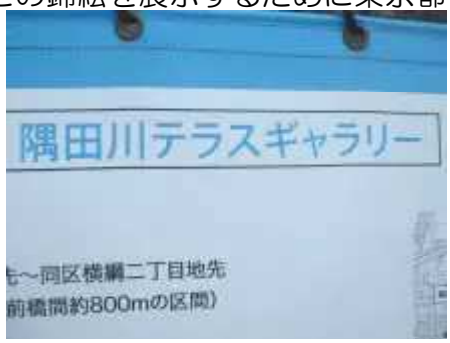
注意書きが貼られてから「少なくとも10年になるのでは」と男性警備員。ただかえって興味を引いてしまうためか、今でも時々「本当に横綱なのか」と聞かれるそうです。

この勘違いがどれだけ浸透しているかを示す証拠は事欠かないです。

協会に届いた郵便物には間違った「横綱」の宛名書きがあるわあるわ。とりわけ、手書きに多いそうです。キーボードのキーを押して変換する過程を挟まず、流れで書くため、相撲からの連想で条件反射的に筆が滑ってしまうのでしょうか。

国技館のそばを流れる隅田川の堤防の壁面

に大相撲などの錦絵を展示するために東京都建設局が設けた「隅田川テラスギャラリー」の案内にも、同様の誤字がある。



古い例では、朝日新聞社や文芸春秋で校正を務めた加藤康司氏の著書「校正おそるべし」（1959年）で、横綱と活字を拾ってしまったエピソードが紹介されている。

あまりにも間違いが多いことが、横網地区の町内を巻き込んだ騒動になったこともあります。60年代半ばごろ、区が地元に対し「横綱」への地名変更を打診。町内には「冗談じゃない」と猛反発する声が上がったといいます。当時町会の副会長だった鍛冶健一さんは「世間話で出た、冗談半分の話」と断りつつも、「ちょんまげの時代からの町名をなくすわけにはいかなかった」と振り返る。

町名の変更への猛反発は無理もないです。1875年（明治8年）に明治政府の指示で編さんされた「東京府誌　巻第六十八」によれば、そもそもこの地区は江戸時代の貞享（じょうきょう）年間（1684～88年）には既に「南本所横網町」と称していた伝統ある地名なのです。

国会では安倍首相が空目した結果、「云々（うんぬん）」を「伝々（でんでん）」と読んでしまった事は有名です。

点字図書館でも「長崎県視覚障害者情報センター」と「長野県視覚障害者福祉協会」、「宮城県視覚障害者情報センター」「宮崎県立視覚障害者センター」など、ちょっと見で見間違いやすい名称があります。間違って送らないように、情文では色を付けたりして、見誤りを少なくする方法をとられています。

特殊な言葉でなくても「入口／人口」「崇める／崇る（あがめる／たたる））」「侍／待つ（さむらい／まつ）」「侮る／悔しい（あなどる／くやしい）」「菊池／菊地（きくち：姓）」「兔／免（うさぎ／めん））」「滅／減（めつ／げん）」「午／牛（ご／うし）」「助／肋（すけ／あばら）」「卯／卵（う／たまご）」「土／士（つち／し）」「魂／塊（たましい／かたまり）」「埋／理」「基地／墓地」「碁石／墓石」「懐かしい／壊れる」「叉／又」「城／域」「奪／奮」「鳥／烏（とり／からす）」「孤／狐」「宇／字」と書き出せば紙面を埋めるぐらい実例はあります。

こんなトリックアートは、よく見ますね。これらは意図的に錯覚を狙ったものですが、一般的な文章では自分の脳が引き起こすものです。

次の写真を見て下さい。

↓

トリックアートとは分かっていても足がすくみます。人はだまされたり、あやまって理解するものです。

空目には特効薬はありません。人は必ず錯覚したり間違ったりする事があるものと理解して、注意して読むしかありません。世の中には錯覚・誤解する材料が散乱しています。

読んでいて、何か変だなあと思ったら、見返すということも必要です。

寄り道・回り道

レポーター：木村（きむら） 謹治（きんじ）

カドヤ食堂 阪神梅田店

【所在地】　大阪市北区梅田1-13-13 阪神梅田本店 B1F スナックパーク
【電話番号】　06-6345-0327
【行き方】　東梅田駅から62m
【営業時間】　10:00～22:00
【定休日】　なし
【URL】　https://www.hanshin-dept.jp/hshonten/restaurantguide/index.html/#snackpark

うどんと蕎麦、ラーメンなら何を選ぶと聞かれたら、すかさず、うどんと答えていたのですが、旅先で食べる蕎麦の旨さに目覚めました。蕎麦も美味しいですね。そして、最近では、ラーメンの旨さにも気付いたのです。

歳を重ねると共に食の好みも変わると聞いていますが、今まで圏外にあったラーメンが時々食べたくなります。

そんなラーメン一年生が、またもやアルテの樋口さんに、大阪では有名なラーメン店が阪神百貨店のスナックパークに店を出したよと、肩を押され食べに来た次第です。デパートの壁には目的地までの距離が書かれており、次第に縮まる距離に、期待を抱かせます。

時間帯を少しずらしたのですが、行列が出来ていました。が、15分も待たないうちに僕の番が。メニューは

中華そば	500円
味玉入り中華そば	600円
チャーシューめん	750円
特製中華そば	850円

です。スナックパークの出店に合わせて、ワンコイン500円で食べれるように麺を作ってきたそうです。ちなみに、本店では中華そばは830円です。

味玉入り中華そば、600円を注文しました。店舗で商品を買って、立ち食いのテーブルで食べるスタイルです。

スープは鶏ガラ豚ベースの魚出し醤油味のダブルスープだそうです。

一口飲んでみると結構パンチの効いた濃い醤油味でした。シンプルながらコクがあります。

すっきりと濁りのない味と言うのでしょうか、あっさりとしつつも醤油が決まっていて、鶏の風味は弱いですがほのかに感じられるほど良い効き具合です。

麺は細くて平たい麺です。細くて一見柔らかい麺なのかなと思ったのですが、そうではなく、噛みごたえのあるしっかりとした麺で、茹で加減が抜群に良かったです。

麺にスープが絡まりやすく、美味しく中華そばを食べることができました。

味玉は少し甘めの味付けで、しっかりと味もしみています。

スナックパークには、カドヤ食堂の他、阪神名物 いか焼きを始め、立ち喰い魚 ふじ屋（海鮮）、牛焼き みらく（丼）、道頓堀赤鬼（お好み焼き＆焼きそば）、とり天うどん てんぼう、天ぷらの山、焼きスパ＆ワイン ローマ軒（焼きスパゲッティ）、魚がし日本一（寿司）、ちょぼ焼き、御座候、うまかラーメン、玉子丸（オムライス）が有ります。

阪神百貨店の地下１階です。すぐに分かるので地図は省略しました。

『以下の漢字、読めますか？』(その1)

対面リーディング・ボランティア　望月（もちづき）　明（あきら）

以下の内容は、音訳活動に携わる私たちが普段手にしているＮＨＫ放送文化研究所・編「ＮＨＫ　日本語　発音アクセント辞典」(平成10年)より引用したものです。普段あまり使うことのない漢字がたくさん掲載されています。カナが振られていないと読むのが難しい漢字を抽出してみました。

恥ずかしながら、読めない漢字の多さにがっくり。皆様、お遊びで、読みに挑戦を！！

以下、アイウエオ順に並べました。カッコの大きさは、カナの字数を考慮したものです。

【ア行】

嗚呼(　　)、彼奴(　　)、阿吽(　　)、青痣(　　)、青内障(　　)、煽る・呷る（　　)、皸(　　)、上がり框(　　)、灰汁(　　)、齷齪(　　)、薊(　　)、阿漕(　　)、海豹(　　)、海驢(　　)、翌檜(　　)、四阿(　　)、彼所(　　)、彼方此方(　　)、艶やか(　　)、痘痕(　　)、荒屋(　　)、家鴨(　　)、焙る(　　)、信天翁(　　)、数多(　　)

【解答】アア、アイツ、アウン、アオアザ、アオソコヒ、アオル、アカギレ、アガリカマチ、アク、アクセク、アザミ、アコギ、アザラシ、アシカ、アスナロ、アズマヤ、アソコ、アッチコッチ、アデヤカ、アバタ、アバラヤ、アヒル、アブル、アホウドリ、アマタ

遍く・普く(　　)、争う・抗う(　　)、行火(　　)、烏賊(　　)、毬栗(　　)、厳めしい(　　)、縊死(　　)、虎杖(　　)、無花果(　　)、一瞥(　　)、逸物(　　)、一縷(　　)、一掬(　　)、鯔(　　)、嘶く(　　)、鼾(　　)、燻る(　　)、疣疣(　　)、甍(　　)、独活(　　)、饂飩(　　)、嗽(　　)、蠢く(　　)、蛆(　　)、疼く(　　)、蹲る(　　)、鶉(　　)、嘯く(　　)

【解答】アマネク、アラガウ、アンカ、イカ、イガグリ、イカメシイ、イシ、イタドリ、イチジク、イチベツ、イチモツ、イチル、イッキク、イナ、イナナク、イビキ、イブル、イボイボ、イラカ、ウド、ウドン、ウガイ、ウゴメク、ウジ、ウズク、ウズクマル、ウズラ、ウソブク

茹だる(　　)、鬱屈(　　)、俯く(　　)、魘される(　　)、呻く(　　)、有耶無耶(　　)、麗ら(　　)、胡乱(　　)、釉薬(　　)、蘊蓄(　　)、英邁(　　)、似非(　　)、壊疽(　　)、鰓(　　)、閻魔(　　)、追風(　　)、花魁(　　)、鸚鵡(　　)、大鋸屑(　　)、可笑味(　　)、御数(　　)、陸稲(　　)、御包み(　　)、螻蛄(　　)、虎魚(　　)、海髪(　　)

【解答】ウダル、ウックツ、ウツムク、ウナサレル、ウメク、ウヤムヤ、ウララ、ウロン、ウワグスリ、ウンチク、エイマイ、エセ、エソ、エラ、エンマ、オイテ、オイラン、オウム、オガクズ、オカシミ、オカズ、オカボ又はリクトウ、オクルミ、オケラ、オコゼ、オ

ゴノリ
御零れ(　　)、驕り・奢り(　　)、御強(　　)、怖気(　　)、鴛鴦(　　)、白粉花(　　)、煽てる(　　)、苧環(　　)、遠近(　　)、囮(　　)、鉄漿(　　)、御端折り(　　)、御櫃(　　)、怖めず臆せず(　　)、万年青(　　)、雄鶏(　　)
【解答】オコボレ、オゴリ、オコワ、オジケ、オシドリ、オシロイバナ、オダテル、オダマキ、オチコチ、オトリ、オハグロ、オハショリ、オヒツ、オメズオクセズ、オモト、オンドリ

【カ行】
掻い潜る(　　)、膾炙(　　)、灰燼(　　)、掻い摘む(　　)、腕捻り(　　)、掻巻(　　)、屈まる(　　)、杜若(　　)、書熨斗(　　)、欠餅(　　)、矍鑠(　　)、霍乱(　　)、翳す(　　)、瘡蓋(　　)、鰍(　　)、傅く(　　)、姦しい(　　)、鐚(　　)、鬘下(　　)、蝸牛(　　)、騙る(　　)、金轡(　　)、鼎(　　)
【解答】カイクグル、カイシャ、カイジン、カイツマム、カイナヒネリ、カイマキ、カガマル、カキツバタ、カキノシ、カキモチ、カクシャク、カクラン、カザス、カサブタ、カジカ、カシズク、カシマシイ、カスガイ、カズラシタ、カタツムリ、カタル、カナグツワ、カナエ

金盥(　　)、粥(　　)、獺(　　)、侃侃諤諤(　　)、曲尺(　　)、鏑矢(　　)、齧り付く(　　)、蟷螂(　　)、紙礫(　　)、芥子(　　)、花梨(　　)、翡翠(　　)、諫言(　　)、癇癪(　　)、鉋(　　)、雁擬き(　　)、機宜(　　)、桔梗(　　)、木沓(　　)、木耳(　　)、樵(　　)、気障(　　)、煙管(　　)、忌憚(　　)、啄木鳥(　　)、後朝(　　)
【解答】カナダライ、カユ、カワウソ、カンカンガクガク、カネジャク、カブラヤ、カブリツク、カマキリ、カミツブテ、カラシ、カリン、カワセミ、カンゲン、カンシャク、カンナ、ガンモドキ、キギ、キキョウ、キグツ、キクラゲ、キコリ、キザ、キセル、キタン、キツツキ、キヌギヌ

黍団子(　　)、肌理(　　)、泣訴(　　)、旧套(　　)、胡瓜(　　)、仰臥(　　)、驕慢(　　)、雲母(　　)、錐揉み(　　)、金盞花(　　)、金鍔(　　)、金団(　　)、傀儡(　　)、擽り(　　)、嘴(　　)、轡(　　)、燻らす(　　)、黒黴(　　)、慈姑(　　)、頚骨(　　)、啓蟄(　　)、頚椎(　　)、閨閥(　　)、痙攣(　　)、怪訝(　　)
【解答】キビダンゴ、キメ、キュウソ、キュウトウ、キュウリ、ギョウガ、キョウマン、キララ、キリモミ、キンセンカ、キンツバ、キントン、クグツ、クスグリ、クチバシ、クツワ、クユラス、クロカビ、クワイ、ケイコツ、ケイチツ、ケイツイ、ケイバツ、ケイレン、ケゲン

懈怠(　　)、紫雲英(　　)、巻繊(　　)、此奴(　　)、希う(　　)、鯉幟(　　)、傲岸(　　)、膠原病(　　)、嚆矢(　　)、好事家(　　)、膠着(　　)、蝙蝠(　　)、沙蚕(　　)、虚仮(　　)、虚仮威(　　)、股肱(　　)、此処彼処(　　)、莫蓙(　　)、小皺(　　)、挙って(　　)、炬燵(　　)、鏝(　　)、海鼠腸(　　)、拱く(　　)、菰蓆(　　)、紙縒(　　)、懇篤(　　)、恐持て(　　)
【解答】ケタイ、ゲンゲ、ケンチン、コイツ、コイネガウ、コイノボリ、ゴウガン、コウゲンビョウ、コウシ、コウズカ、コウチャク、

コウモリ、ゴカイ、コケ、コケオドシ、ココウ、ココカシコ、ゴザ、コジワ、コゾッテ、コタツ、コテ、コノワタ、コマネク、コモムシロ、コヨリ、コントク、コワモテ

【サ行】
搾菜(　　)、冴え冴え(　　)、桜桃(　　)、柘榴(　　)、栄螺(　　)、蠍(　　)、捌く(　　)、然程(　　)、粗目(　　)、笊(　　)、鰆(　　)、慙愧(　　)、惨憺(　　)、誣いる(　　)、然然・云云(　　)、直穿き(　　)、為着せ(　　)、忸怩(　　)、時化(　　)、扱く(　　)、蜆(　　)、強か(　　)、輜重(　　)、確り(　　)、昵懇(　　)、竹箆返し(　　)、卓袱(　　)
【解答】ザーサイ、サエザエ、サクランボ、ザクロ、サザエ、サソリ、サバク、サホド、ザラメ、ザル、サワラ、ザンキ、サンタン、シイル、シカジカ、ジカバキ、シキセ、ジクジ、シケ、シゴク、シジミ、シタタカ、シチョウ、シッカリ、ジッコン、シッペガエシ、シッポク

淑やか(　　)、東雲(　　)、蕊(　　)、自儘(　　)、注連(　　)、芍薬(　　)、鯱(　　)、軍鶏(　　)、漏斗(　　)、瀟洒(　　)、初切(　　)、素面(　　)、虱(　　)、白飛白(　　)、咳く(　　)、殿(　　)、誰何(　　)、芋茎(　　)、炊爨(　　)、垂涎(　　)、饐える(　　)、蘇芳(　　)、眇め(　　)、縋り付く(　　)、酸模(　　)、鋤(　　)
【解答】シトヤカ、シノノメ、シベ、ジママ、シメ、シャクヤク、シャチ、シャモ、ジョウゴ・ロウト、ショーシャ、ショッキリ、シラフ、シラミ、シロガスリ、シワブク、シンガリ、スイカ、ズイキ、スイサン、スイゼン、スエル、スオウ、スガメ、スガリツク、スカンポ、スキ

鋤鍬(　　)、漉く(　　)、竦む(　　)、杜撰(　　)、鱸(　　)、漱ぐ・濯ぐ(　　)、生絹(　　)、簾(　　)、鼈(　　)、脛(　　)、拗ねる(　　)、垂髪(　　)、菫(　　)、擂粉木(　　)、磨り出し(　　)、正鵠(　　)、筮竹(　　)、女衒(　　)、騒擾(　　)、謗る(　　)、粗朶(　　)、其方(　　)、空嘯く(　　)
【解答】スキクワ、スク、スクム、ズサン、スズキ、ススグ、スズシ、スダレ、スッポン、スネ、スネル、スベラカシ、スミレ、スリコギ、スリダシ、セイコク、ゼイチク、ゼゲン、ソウジョウ、ソシル、ソダ、ソッチ、ソラウソブク

【タ行】
退嬰的(　　)、太神楽(　　)、玳瑁(　　)、箍(　　)、内匠(　　)、酣(　　)、胼胝(　　)、襷(　　)、敲く(　　)、爛れ目(　　)、譬え(　　)、仮令(　　)、田螺(　　)、荼毘(　　)、玉章(　　)、偶(　　)、霊屋(　　)、玉響(　　)、袂糞(　　)、盥(　　)、足乳根(　　)、怠い(　　)、撓む(　　)、端倪(　　)、蒲公英(　　)、団欒(　　)、血膿(　　)
【解答】タイエイテキ、ダイカグラ、タイマイ、タガ、タクミ、タケナワ、タコ、タスキ、タタク、タダレメ、タトエ、タトエ、タニシ、ダビ、タマズサ、タマタマ、タマヤ、タマユラ、タモトクソ、タライ、タラチネ、ダルイ、タワム、タンゲイ、タンポポ、ダンラン、チウミ（その２に続く）

※ここに紹介した読みは、あくまでも一例であり、複数の読み方がある漢字も含まれています。
　これを入口に難読漢字に注目してみてはいかがでしょうか。

二村 晃さんがご逝去

本誌の「対面リーディングの難所物語」を執筆されていました、二村晃さんが亡くなられました。「難所物語」は、1993年５月号から2017年2月号までの24年間の長きに渡り連載され、利用者の立場から書かれた示唆に富む話題は対面リーディングの指針とも言えます。また、ご自身の体験をもとにまとめられた図書「耳で読む読書の世界ー音訳者とともに歩む」と共に貴重な資料となっています（３階友の会文庫、及び５階の書架に図書があります）。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

おしらせ

・8月11日（土）から17日（金）まで、対面リーディングはお休みです

当館の夏期休館に伴い、8月11日（土・山の日）から8月17日（金）まで、対面リーディングサービスもお休みとなります。

上記以外は通常通りとなりますが、例年8月はご家族の帰省や旅行など様々な理由でボランティア活動ができないというご連絡を多く頂いています。

そのためこの時期は、いつも以上に職員からの依頼の連絡が入るかと思いますが、もしご都合が合う日がありましたら月に2回、3回と活動して頂けますと助かります。

ご協力のほど、なにとぞ宜しくお願いいたします。

・悪天候や災害発生時の活動について、情文ホームページのご活用を

対面通信2018年4月号で、警報発令時の館内サービス休止規定の変更をお伝えしましたが、休止規定に当てはまらなくても、来館が危険と判断された時などに館内サービスを休止する場合があります。今後、規定に当てはまらない大きな災害が起きた場合には、ご来館の前に当館のホームページをご覧頂くか、電話でお問い合わせ下さるようにお願いいたします。【情報文化センターホームページ　http://www.lighthouse.or.jp/iccb/】

・活動可能日の変更があればお知らせ下さい

このところ特定の曜日（特に土曜日と水曜日）に多くのご依頼が集中する傾向が見られます。皆様にお知らせ頂いている活動可能日を元に担当者が連絡させて頂いておりますが、土曜日に活動可能な方が非常に不足しています。

以前に「平日活動可」や「土曜不可」とお伝え頂いた方で、土曜日も活動できるようになった方がおられましたら、対面担当までお知らせ下さい。また、ご自身がどのように活動可能日をお伝え頂いていたかご不明な場合は、対面担当までお尋ね下さい。

毎年言ってる気がしますが、今年の暑さは特別ですね。“異常”気象が“日常”になってきている怖さを感じます。体調を崩されませんよう、充分にご注意下さい。（F）

日本ライトハウス 情報文化センター
550-0002 大阪市西区江戸堀1-13-2
06-6136-7704（対面専用）
06-6441-0039（サービス部）